



CASSIOPEIA—UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

JICA ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト



左から右へ：法月正太郎プロジェクトチーフアドバイザー、コンシティー・ムワレ ルサカ州保健局長、調査団として派遣された国立国際医療研究センターの永井真理先生と感染管理の短期専門家として派遣された坪井基行先生（ルサカ州保健局での記念撮影）

フロントラインの医療従事者を対象に救急・重症患者ケアマネジメント交換プログラム第2フェーズを支援

手術部位感染症サーベイランス開始のため日本人専門家がカニヤマ病院を訪問

フォトフォーカス NCGMから永井医師の来訪など



フロントラインの医療従事者を対象に 救急・重症患者ケアマネジメント 交換プログラム第2フェーズを支援

州保健局のモニタリング・スーパービジョンの強化を通じて、2次-3次医療機関という異なるレベル間の第一線の医療従事者の間で、救急および重症患者管理に関する知識と技能の伝達を強化します。



ルサカでの救急・重症患者ケアマネジメント交換プログラムの全体会議

ルサカ州保健局は、カシオペアプロジェクトの支援を受けて、2023年2月14日にルサカのTaj Pamodziホテルで、ルサカ州のフロントラインの医療従事者を対象とした救急・重症患者ケアマネジメント交換プログラムに関するフォローアップミーティングを開催し、チレンジェ病院、チパタ病院等を対象としたフェーズ2が行われることが決定されました。

法月チーフアドバイザーは、フェーズ1の成功を踏まえ、プロジェクト対象病院を含むルサカ州の他の医療施設にこの交流プログラムを拡大してくれた、保健省、州保健局、郡保健局に感謝しました。また、他の病院とお互いに学び合いながら質の高い医療サービスについて議論することの重要性を強調し、病院間の交流経験や経験の共有は、病院の医療の質を向上させるために重要であると述べました。

州保健局長に代わりスピーチを読み上げたムシスカ臨床ケアユニット長は、ルサカ州保健局が促進する救急・重症患者ケアマネジメント交換プログラムが、フェーズ1としてUTH、カニヤマ病院、マテロ病院、チャワマ病院を対象に2022年9月12日から12月12日までの3ヶ月間行われ、成功を収めたことを述べました。このフェーズ1で基礎が築かれ、今回はフェーズ2として、ルサカ州の拠点病院を対象として、死亡率や患者さんの待ち時間を減らすという成果を達成されることが期待されています。

チレンジェ病院とチパタ病院は前フェーズ1に活動に参加していないため、ルサカ州の全ての2次レベル病院でのサービス提供を改善するために、このフェーズ2のプログラムに参加する予定です。今回、救急医療と重症患者ケアマネジメントのトレーニングフェーズ2は、カシオペアプロ

ジェクト対象のチパタ病院、チレンジェ病院に加え、レビー病院、チランガ地区のシカンゼ警察病院と、ナカチェンジェミニ病院も参加しました。各チームは、指導、技術支援、スーパービジョンといった観点から、他の医療施設をサポートするための戦略を打ち出すことが期待されています。各チームは、ルサカの各施設において、救急医療管理、患者リファラルシステム、外来診療サービスの改善と全体的なサービス提供のために、さらに努力するようアドバイスされました。

また、このプログラムは、JICAのカシオペアプロジェクトの支援により行われ、病院運営管理の強化の一環として開催されました。州保健局長は、この会議が開催されたこと、各病院の幹部が努力し、調整した結果、機能的な救急部門が設置されたことに感謝しました。

また、UTHのチルバ院長に代わりスピーチしたチベサクンダ医師は、このプログラムが、他の医療施設と経験やスキル、アイデアを共有することによって救急医療システムを強化することを目的としていることが強調されました。

法月チーフアドバイザーは、質の高い医療を提供するためにカシオペアプロジェクトの3つの柱を説明しました。第一にバランススコアカードとアクションプランの活用によるシステムアップグレードについて。第二に、データに基づく可視化、透明性、説明責任の向上を通じた進捗状況のモニタリング。第三に、教育活動やトレーニングなどの能力開発。最終的には病院間で優れた実践を共有することを目的としています。

最後に、ムシスカ郡保健局長は、カシオペアプロジェクトを実施するのJICAと出席メンバーに感謝するとともに、病院のマネジメント体制の構築と強化のために、保健施設に知識を共有し、互いに指導し合うことの重要性を強調しました。



5つの総合病院の看護師長への感謝の気持ちを含めたケーキの贈呈（開催した2月14日はバレンタインのため）



ルサカで行われたフロントラインの医療従事者を対象に救急・重症患者ケアマネジメント交換プログラムにて、自己紹介と激励の言葉を述べるNCGMの永井医師



救急・重症患者ケアマネジメント交換プログラムにて、閉会の挨拶をするムシスカ郡保健局長



救急・重症患者ケアマネジメント交換プログラムにて、集合写真を撮る参加者たち

手術部位感染症サーベイランス開始のため 日本人専門家がカニャマ病院を訪問

坪井医師は、国立国際医療研究センター 国際医療協力局に所属する疫学、感染症予防管理の専門家です。プロジェクト対象5病院では、手術部位感染症が大きな問題となっており、手術部位感染症のサーベイランスはプロジェクト活動の1つに位置づけられています。サーベイランスを実施することで、各病院の手術部位感染症の実態を見える化し、対策を行うことにより、医療関連感染を減らすことを目的としています。坪井医師は、このサーベイランスを立ち上げるためにカニャマ病院を訪れました。

今回のカニャマ病院への訪問の目的は、手術部位感染の状況を評価し、米国疾病管理予防センター（CDC）やWHOなどの標準的なサーベイランスを参考として、ザンビアの対象病院で実施可能で実現可能なSSIサーベイランスの提案を行い、州保健局や病院の感染管理担当者とともに、他の病院へ展開していくためのドラフトを作成することです。

カニャマ病院では、医師と看護師を中心としたICTが立ち上がり、サーベイランスの準備を進め、2023年3月1日よりサーベイランスが開始されました。

坪井医師は、さらに実施状況をモニタリングし、ザンビアの病院において実現可能で実施可能なSSIサーベイランスの具体的な実施方法についてさらに協議し、定期的なモニタリングと報告を含む実施体制の確立を行います。

今後、サーベイランスの実践を標準化するための手順書やチェックリストの案を作成する予定になっています。



坪井医師はカニャマ病院を頻繁に訪問し、感染管理に関する情報を入手し、サーベイランス体制を構築しました

カシオペアプロジェクトの目的

対象5病院においてサービスの質改善のための 病院運営管理能力が強化される

フォトフォーカス：NCGMから永井医師の来訪など



JICAザンビア事務所にて、泉次長、芦田さんとともにプロジェクト運営について議論する法月医師と永井医師



法月チーフアドバイザーから永井医師を紹介されるカニヤマ病院のウィルソン院長



カニヤマ病院薬局の5Sの現状を永井医師に見せる法月チーフアドバイザー



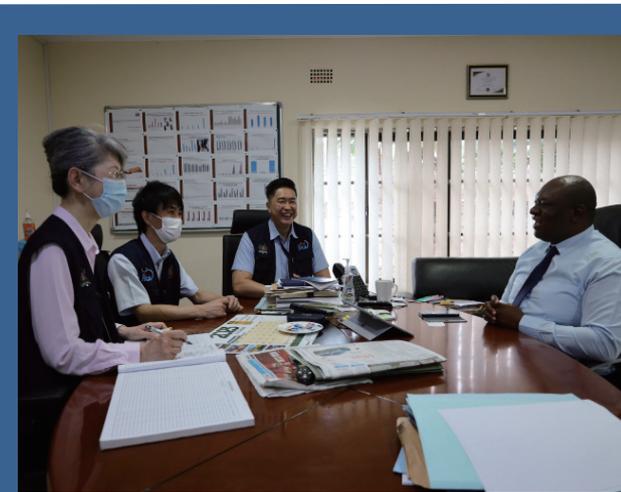
マケニ・トランジット・ヘルス・ポストで麻疹の予防接種キャンペーンを見学する法月チーフアドバイザー



カニヤマ病院にて医療機器の打ち合わせをする塩田専門家



カニヤマ病院の事務長と打ち合わせをするニヤンガ専門家



コンシティー・ムワレ州保健局長を表敬訪問する永井医師、坪井医師、法月チーフアドバイザー

編集・デザイン：エレン ムティナ チピリピリ
編集長：法月正太郎

連絡先
法月正太郎 ルサカ郡病院運営管理能力強化
プロジェクト チーフアドバイザー

住所：Plot No.11743A, Brenwood Lane,
Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101,
ZAMBIA

E-mail: cassiopeia.project.zm@gmail.com
Website: <https://www.jica.go.jp/project/>